

自転車利用実態定点調査報告

平成29年1月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成28年12月15日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間				車種		男女		危険走行調査												
	歩道	車道	歩道	車道	普通	電動	男	女	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1																					
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					
20																					
21																					
22																					
23																					
24																					
25																					

調査日時:	平成 28 年 12 月 15 日
次第:	第 〇 号
調査時間:	午前 8:00 ~ 8:50

<調査票>

【コメント】

◎走行空間においては、車道左側走行率は、3%であり、歩道走行率は、97%の結果であった。

◎危険運転行為は、並列運転(40件)・片手運転(26件)・立ち漕ぎ(18件)・過積載(13件)・ギター背負い(5件)・肩に荷物/ハンドルに荷物(各4件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、歩道通行者が主体であったが、極一部の生徒が左側通行をしていた。

原因として、幹線道路に面しており、交通量も多いことが考慮される。

車道を避けて歩道を通行せざるを得ない状況となっているが、歩道(幅員 3m)と広めなため、安全策として歩道を通行していると思慮される。

なお、危険運転行為の中では、並列運転が、全体(110件)の36%(40件)/片手運転が24%(26件)を占めており、両者だけで6割を占有していた。

事故を招きやすいため、止めるべき行為である。

また、ギター背負いの生徒は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が必須である。

なお、校門直前で左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数 1000人)の5割である。

校内には、自転車駐輪場が複数整備(総収容台数 650台)されていた。

なお、自転車駐輪場は、学年毎に区分けされていた。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

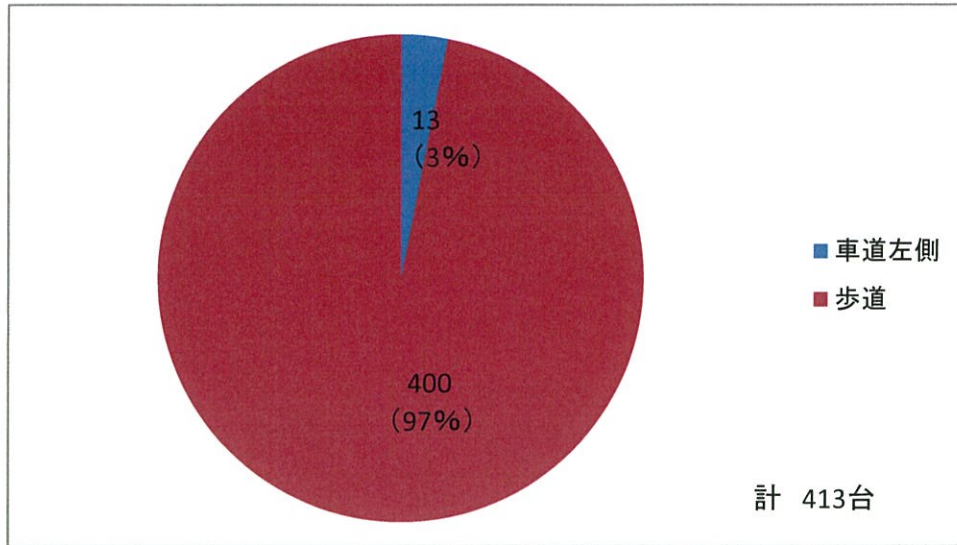
さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、正門の1箇所だけであった。

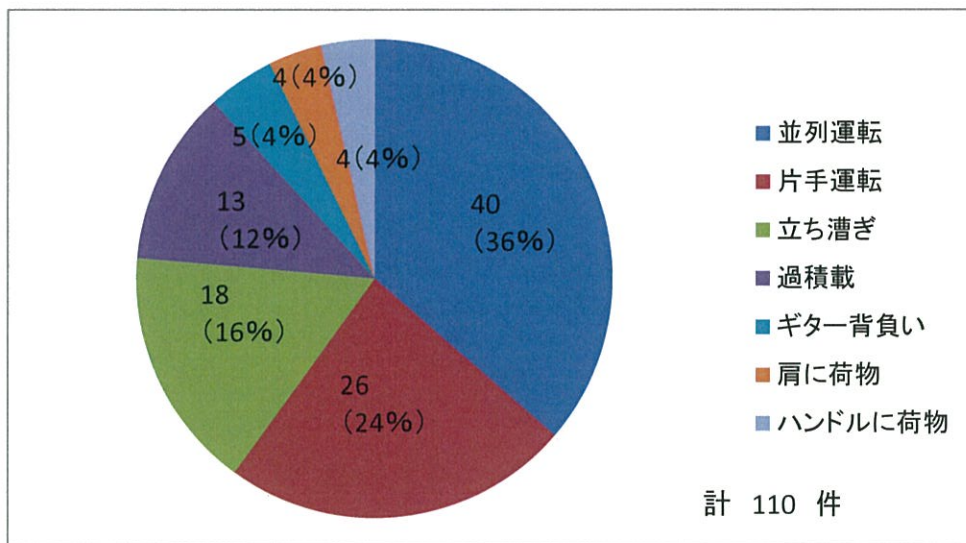
また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、交通安全啓発の一環として、年に 1～2 回全校生徒を対象に交通安全教室(地元警察主催)を開催している。

なお、昨年3月には、スタントマンによる交通安全教室及び5月には、座学にての交通安全教室を実施した経緯がある。



走行空間



危険運転行為